＜新型コロナ（COVID-19）ワクチン＞

5～11 歳は「ファイザー社製のワクチン」を用います。成人用とは違う容器で 1 本に 10 人分が含まれています。貴重なワクチンですので、申し込み後にやむを得ずキャンセルされる場合には、早めのご連絡を御願い致します。

【ワクチンの仕組み】

新型コロナウイルスのスパイクタンパク質（ウイルスがヒトに感染するのに必要なタンパク質）の設計図となるメッセンジャーRNA（mRNA）を脂質の膜に包んだワクチンです。新型コロナウイルスのスパイクタンパク質だけが産生され免疫物質（抗体）や細胞性免疫が誘導される（免疫が強化される）ことで、新型コロナウイルスに感染しても発症や重症化を予防する効果が期待できます。ワクチンで新型コロナウイルスそのものが体内で増えることはありません。

＜注意点＞

ワクチンでウイルス感染自体を完全に予防できるわけではないため、接種後もこれまで同様に、感染予防対策が重要です。効果が得られるのは 2 回目を接種後 1 週間程度と言われています（1 回だけでも全く効果が無いというわけではありません）。

【接種回数と間隔】

成人と同様に腕の筋肉に 3 週間あけて 2 回接種します。接種後は急性の副反応が生じないか 15-30 分の経過観察時間を設けていますので、気になる症状がみられる場合には遠慮なくお近くのスタッフに声をかけてください。

【注意が必要なお子さん】

ワクチンを受けるかどうかは以下の文面も参考にしつつ、主治医がある場合はあらかじめご相談のうえ判断してください。

・抗凝固療法を受けている、血小板減少症や凝固異常症（血友病など）
・免疫不全の診断を受けている、近親者に先天性免疫不全症の方がいる
・心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患がある
・過去に予防接種を受けて、接種 2 日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた
・けいれんを起こしたことがある
・本ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こる恐れがある
　（成分の一つであるポリエチレングリコールも影響していると考えられています）

【有害事象】

1. 血管迷走神経反射

筋肉注射に対する過度の緊張や痛みなどにより、血圧の低下、脈拍の減少などが生じる現象です。脳血流が低下すると意識が悪くなることや、失神することもあります。睡眠不足や過労、長時間の起立、精神的ストレス時などに起こりやすくなります。この症状自体はワクチンに対するアレルギー症状との直接の関連はなく、横になって安静にすることで治まります。接種前に深呼吸するなどリラックスすると起こりにくいです。**立ちくらみが生じやすいお子さんや、以前に採血や注射などで似たような症状が出たことのある場合は接種前に申し出てください。経過観察時に注意して対応します。**

2. 「ワクチンの副反応」

まれに起こる重大な副反応のアナフィラキシーショックは通常接種後の観察時間内に起こります。その他の副反応は、頭痛、関節や筋肉の痛み、注射部分の痛み、だるさ、寒気、発熱等です。ごくまれに、ワクチン接種後に心筋炎や心膜炎が報告されています。最近の知見では**10代および20代男性で**多ことがわかってきました。**接種後1週間以内に起こることが多く**、軽症で終わる方が多いとされていますが、**ワクチン接種後数日間は無理をせず、激しい運動は避けてください。胸痛、動悸、息切れ、むくみ等の症状が現れたら接種した医療機関やかかりつけ医を受診してください。**2回目接種後に多いです。このワクチンは、新しい種類のワクチンのため、これまでに明らかになっていない症状が出る可能性があります。接種後に気になる症状を認めた場合も医療機関にご相談ください。万が一、ワクチン接種によって健康被害が生じた場合には、国による予防接種健康被害救済制度がありますので、お住まいの各自治体にご相談ください。

【Q and A】

Q：食物アレルギーがあるのですが大丈夫でしょうか？

A：基礎疾患やアレルギーのある方が必ずしもアナフィラキシーを起こすわけではありません。**これまでに予防接種などで強いアレルギー症状がでたことのあるかたはあらかじめ主治医と良く相談してください。接種前には必ず申し出てください。**

Q：ワクチンが原因で新型コロナウイルスに感染することはありますか？

A：このワクチンの mRNA からはウイルスの一部（スパイクタンパク質）しか生じません。ワクチンによってウイルス構造全体がつくられることはないため、ワクチンで新型コロナウイルスに感染することはありません。

Q：ワクチンが原因で不妊になるといううわさを聞いたのですが…

A：このワクチンの mRNA は数分から数日といった時間の経過とともに分解されていきます。また、mRNA が人の遺伝情報（DNA）に組みこまれるものではありません。人の遺伝情報（DNA）から mRNA がつくられる仕組みは一方通行で、逆方向に進むことはありません。ワクチンによる mRNA が人の体内に長期に残ったり、精子や卵子の遺伝情報に取り込まれたりすることはないと考えられています。

Q：心筋炎や心膜炎は命にかかわるのでしょうか？

A：心筋炎や心膜炎は非常にまれな副反応で、多くは起こっても軽度のものと考えられています。軽症の心筋炎・心膜炎は基本的には治癒するものであり、仮にかかったとしても入院治療などで対応できると考えられています。また、若年者は新型コロナウイルス感染症にかかった場合にも心筋炎になることがあり、現状ではワクチンの副反応としての心筋炎よりも頻度が高いと考えられています。こうしたことから、現状ではワクチン接種により感染の重症化予防を図るメリットの方が、副反応によるデメリットよりも大きいと考えられています。

Q：ワクチンは絶対に接種しなければいけないものでしょうか？

A：難しい質問ですが、ワクチンによるメリットとデメリットを考えて総合的に判断する必要があります。ご家庭によって事情も異なり、基礎疾患の有無や重症度、社会的環境なども違います。若年者は感染しても軽症の割合が高いことも確かです。一方で、だれにでも「万が一」のことは起こるかもしれませんし、基礎疾患のある方やご家族が不安に思われているのも事実です。考えるきっかけとしてこの説明用紙をご利用いただき、必要に応じてかかりつけの医療機関などにも相談して決められることをお勧めいたします。ワクチン未接種で差別を受けたり、その人自身が否定されることはあってはならないと考えています。これらをよくお考えのうえで接種するかしないかを判断していただきたいです。

岩手医科大学付属病院 小児科 予防接種外来
岩手県医師会
岩手県